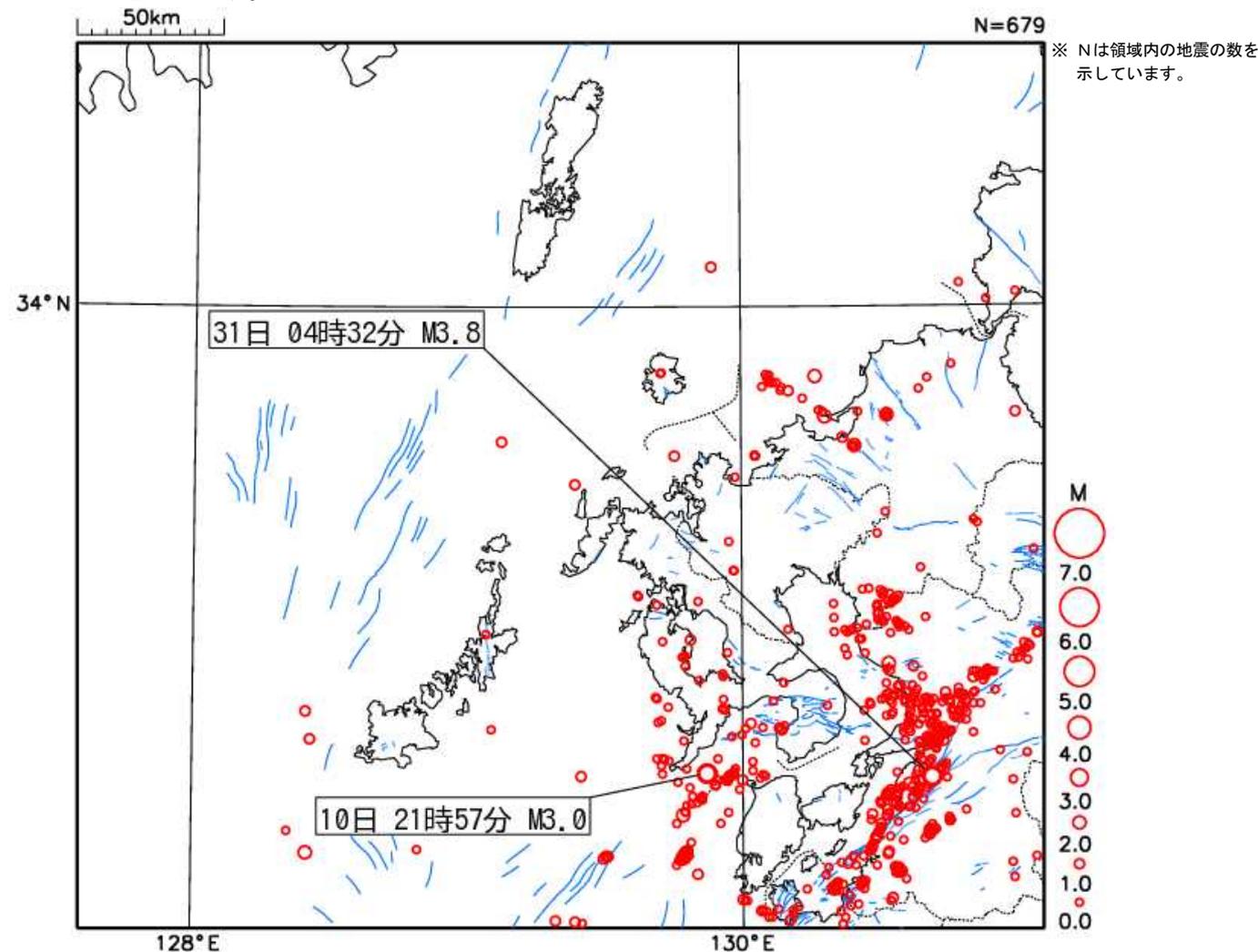


# 長崎県の地震活動概況（2022年5月）

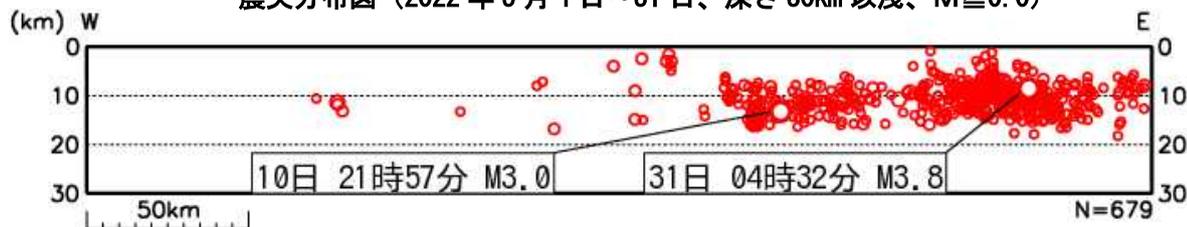
令和4年6月8日  
長崎地方気象台

## 地震活動の概況（2022年5月）

5月に長崎県内で震度1以上を観測した地震は2回でした（4月は0回）。詳細は2～3ページのとおりです。



震央分布図（2022年5月1日～31日、深さ30km以浅、M $\geq$ 0.0）



断面図（2022年5月1日～31日、深さ30km以浅、M $\geq$ 0.0）  
（震央分布図を南の方から見た断面図です）

- ※ 本資料の震央分布図の青色のラインは活断層を示す（活断層のデータは新編日本の活断層による）。
- ※ 本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

### 天草灘

10日21時57分に天草灘（情報発表に用いた震央地名は「橘湾」）で発生したM3.0の地震（深さ13km）により、長崎県長崎市で震度2を観測しました（図1）。

今回の地震の震源付近（図2領域a）では、M3.0以上の地震が時々発生しており、2019年2月23日に発生したM4.4の地震（深さ14km）により、長崎県では長崎市、雲仙市及び南島原市で震度3を観測したほか、県内の広い範囲で震度2～1を観測しています（図2、図3）。



5月10日21時57分 M3.0  
図1 震度分布図（観測点別 ×：震央）

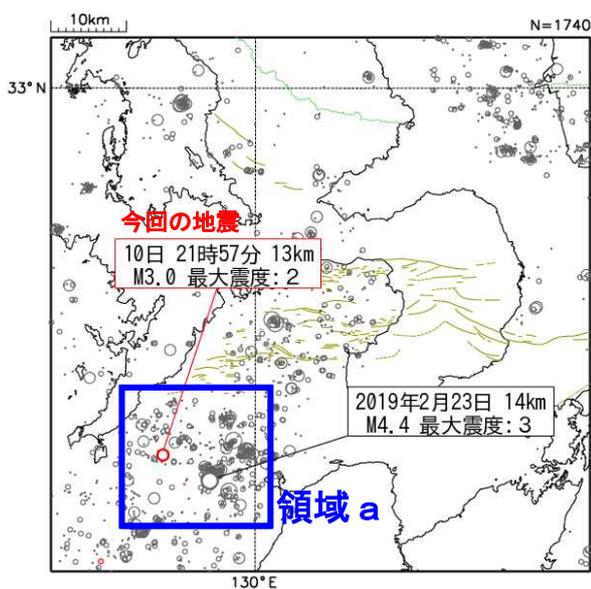


図2 震央分布図

(1997年10月1日～2022年5月31日 深さ0km～20km M $\geq$ 1.5)  
※2022年5月1日以降の地震を赤で表示  
※図中の茶線は地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示す。

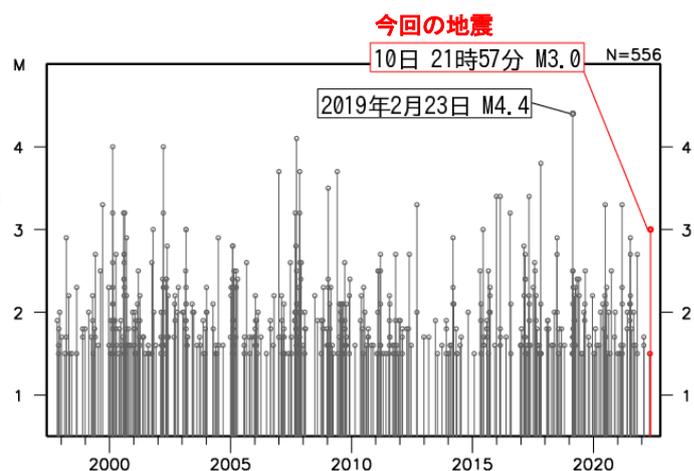


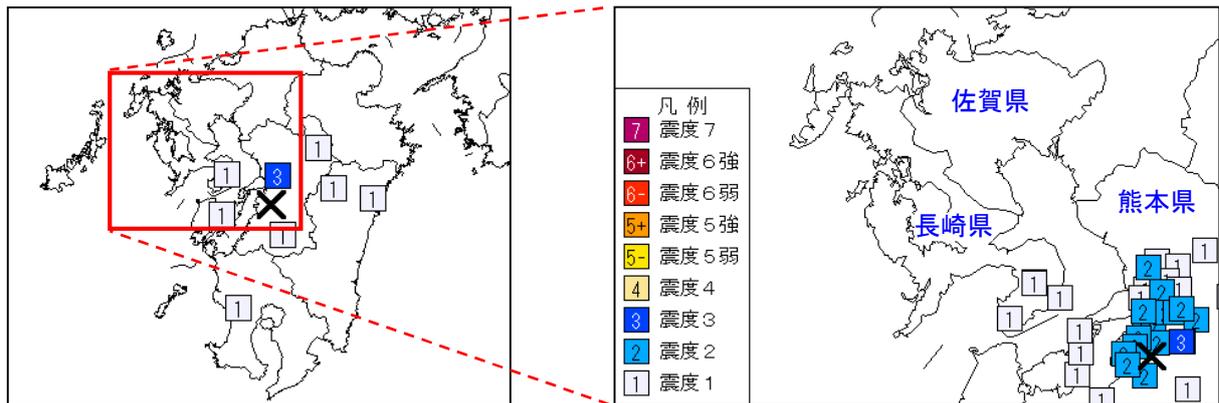
図3 図2領域a内の地震活動経過図

(1997年10月1日～2022年5月31日、M $\geq$ 1.5)

### 熊本県熊本地方

31日04時32分に熊本県熊本地方で発生したM3.8の地震（深さ9km）により、熊本県八代市で震度3を観測したほか、熊本県、長崎県、宮崎県、鹿児島県で震度2～1を観測しました。長崎県では雲仙市及び南島原市で震度1を観測しました（図4）。

今回の地震の震源付近（図5領域b）では、「平成28年（2016年）熊本地震」が発生しています。この領域では、2021年9月19日にM3.5の地震（深さ15km、最大震度2）が発生し、長崎県では雲仙市で震度1を観測しました（図5、6）。



5月31日04時32分 M3.8

図4 震度分布図（左：地域別、右：観測点別 ×：震央）

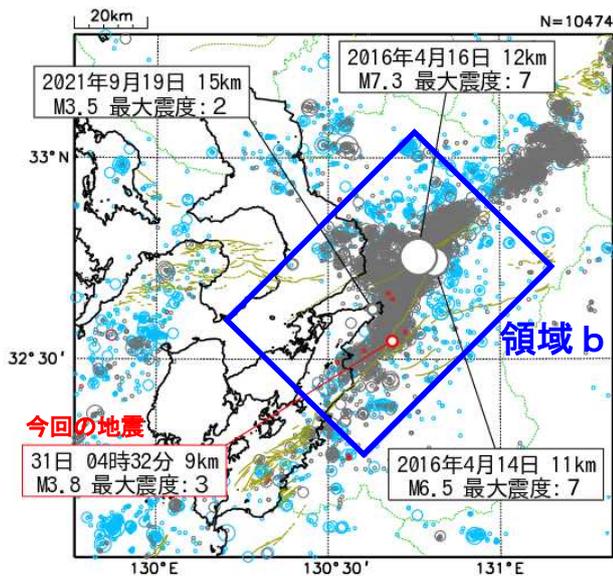


図5 震央分布図

(1997年10月1日～2022年5月31日 深さ0km～20km M $\geq$ 2.0)

※2016年4月13日以前の地震を青色で、

2016年4月14日以降の地震を灰色で

2022年5月の地震を赤色で表示

※図中の茶線は地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示す。

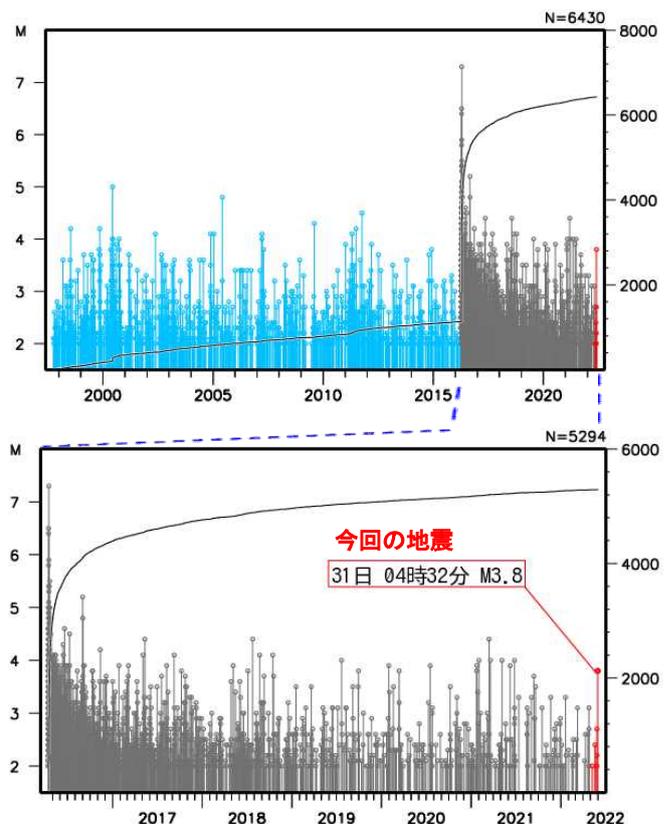


図6 図5領域b内の地震活動経過図及び回数積算図

(上段：1997年10月1日～2022年5月31日、M $\geq$ 2.0

下段：2016年4月14日～2022年5月31日、M $\geq$ 2.0)

## 長崎県内で震度1以上を観測した地震の表 (5月1日~31日)

地震発生時刻 各地の震度	震央地名	北緯	東経	深さ	規模
2022年05月10日21時57分 震度 2 : 長崎市元町*	天草灘	32° 33.5' N	129° 52.2' E	13km	M3.0
2022年05月31日04時32分 震度 1 : 雲仙市小浜町雲仙, 雲仙市雲仙出張所*, 南島原市布津町*, 南島原市加津佐町*	熊本県熊本地方	32° 32.7' N	130° 41.1' E	9km	M3.8

注) 震源要素(緯度・経度・深さ・M)は、暫定値であり、データは後日変更されることがあります。  
\*を付した地点は地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。

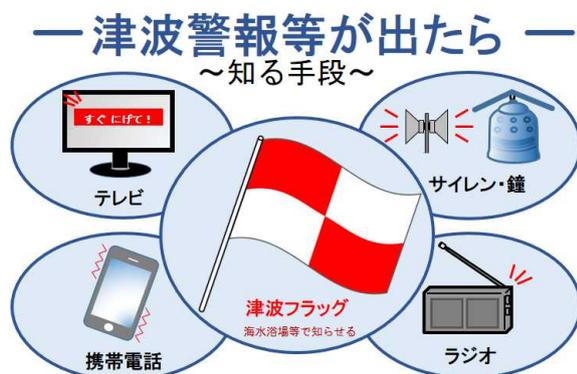
## 津波が来るぞ すぐ避難！ 「津波フラッグ」は避難の合図ー

海水浴場等で、「津波フラッグ」により津波警報等<sup>※</sup>が発表されたことをお知らせする取組が行われています。

津波警報等は、テレビやラジオ、携帯電話、サイレン、鐘等、様々な手段で伝達されますが、令和2年夏から海水浴場等で赤と白の格子模様の旗「津波フラッグ」による視覚的伝達が行われるようになりました。「津波フラッグ」を用いることで、聴覚障害者の方や、波音や風で音が聞き取りにくい遊泳中の方などにも津波警報等の発表をお知らせできるようになります。**海水浴場や海岸付近で「津波フラッグ」を見かけたら、速やかに避難を開始してください。**

「津波フラッグ」は、令和2年夏に運用が開始されましたが、あまり知られていないのが実情です。最終的な目標は、「津波フラッグ」を見た際に、津波警報等が発表されていると誰もが認識し、直ちに避難する行動がとられるようになることです。そのために、まずは音が聞こえにくい状況である海水浴場で「津波フラッグ」による伝達が行われるように、自治体や海水浴場管理者のご理解・ご協力を得ながら、「津波フラッグ」の導入を進めるとともに、「津波フラッグ」を広く知っていただくために周知・広報活動を行っています。

※ここでは大津波警報、津波警報、津波注意報を津波警報等としています。



### 【津波フラッグとは】

長方形を四分割した、赤と白の格子模様のデザインの旗です。

海岸の避難施設で津波フラッグを振っているイメージ  
(公益財団法人 日本ライフセービング協会提供)

注：旗を建物に掲げるなど他の手法でお知らせすることがあります。

情報種類	津波注意報	津波警報	大津波警報		
定性表現	表記しない	高い	巨大		
予想される津波の高さ	1m (0.2m - 1m)	3m (1m - 3m)	5m (3m - 5m)	10m (5m - 10m)	10m超 (10m - )

津波は繰り返し襲ってきますので、津波警報等が解除されるまで安全な場所から離れないでください。